

概要

New マルチ工法は、都市部などの狭い地での基礎工事に適した多機能かつコンパクトな施工機械(DHJ60-3)を用いた施工法です。

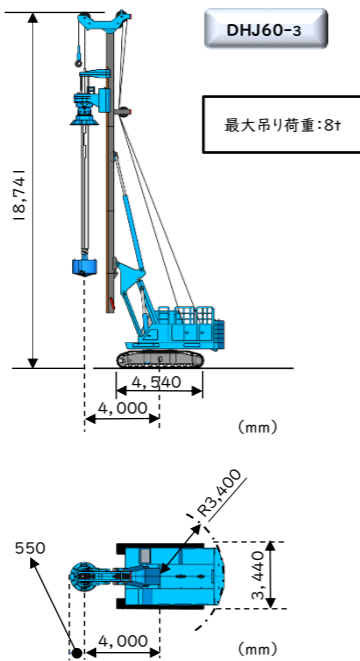
地盤やその他の状況に合わせて掘削ツールを交換することで、地中障害物(既存杭や地下躯体)の撤去から場所打ち杭の施工まで、同一機械で対応できます。

機械の入れ替えが不要なため、コスト削減と工期短縮が同時に実現可能となります。

特徴

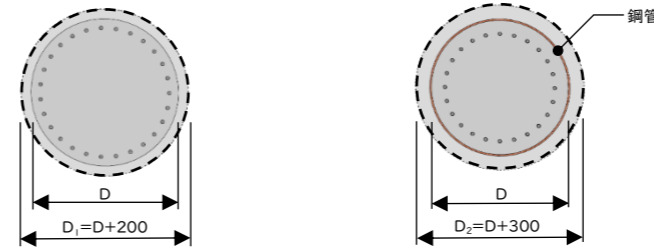
- コンパクトな施工機械のため機動性に優れ、狭い地での施工に適しています。
- 豊富な掘削ツールを使うことで、硬質地盤の掘削及び既存杭や既存地下躯体等の撤去ができます。
- 地中障害物が不明確な場合でも各種掘削ツールを使うことで適宜対応が可能です。
- 同一機械で地中障害物撤去から場所打ち杭築造までの連続施工ができます。
- オールケーシング工法や各種アースドリル(拡底)工法に対応できます。

施工機械と掘削ツール



ケーシング径と新設杭径との関係

新設杭(RC:場所打ちコンクリート杭)の場合: 障害撤去ケーシング径 $D_1 = \text{杭径} D + 200\text{mm}$
 新設杭(TB:場所打ち鋼管コンクリート杭)の場合: 障害撤去ケーシング径 $D_2 = \text{杭径} D + 300\text{mm}$



新設杭と適用可能ケーシング一覧

・保有ケーシング径一覧表

保有ケーシング径	φ1000	φ1200	φ1300	φ1500	φ1600	φ1800	φ2000
	(mm)						

・新設杭径と適用可能ケーシング径一覧表

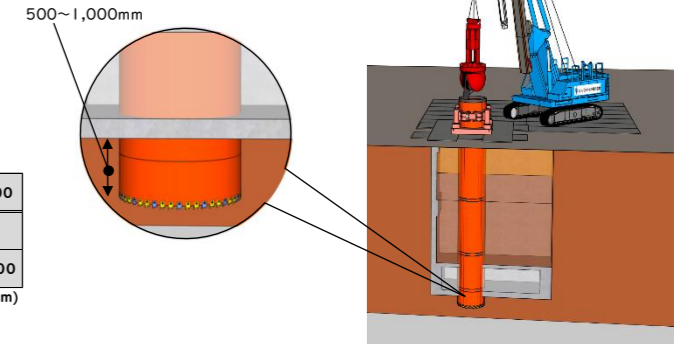
新設杭径	φ1000	φ1100	φ1200	φ1300	φ1400	φ1500	φ1600	φ1700	φ1800
TB 適用ケーシング径	φ1300	φ1500	φ1500	φ1600	φ1800	φ1800	φ2000	φ2000	-
RC 適用ケーシング径	φ1200	φ1300	φ1500	φ1500	φ1600	φ1800	φ1800	φ2000	φ2000
	(mm)								

障害撤去ケーシング径は、標準値であり杭径・地盤状況・敷地・施工機械等を考慮して変わることがあります。φ1600以上は、撤去対象物の状況に応じて施工可否検討が必要ですのでお問い合わせください。

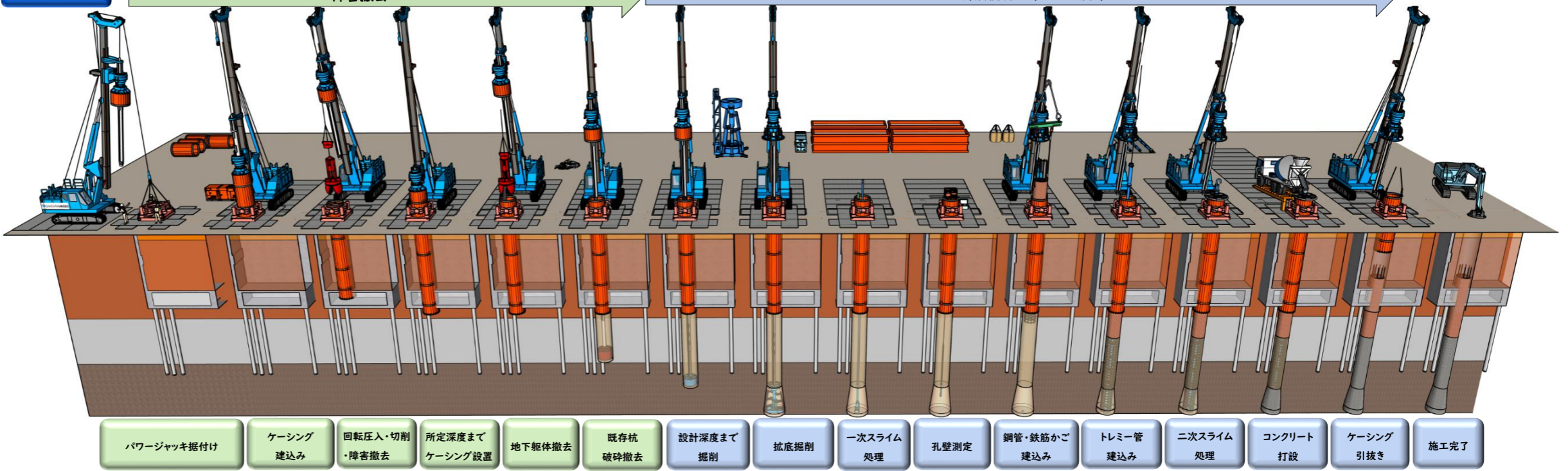
障害撤去深度

<障害撤去可能深度>
 約10m
 ※障害撤去ケーシングの仕様・現場の状況・補助クレーンの有無などの条件で最大深度は変わりますので詳細はご相談ください。

<障害撤去ケーシング深度>
 対象障害物深度プラス500~1,000mmとし、確実に地中障害物(地下躯体など)の撤去を行います。

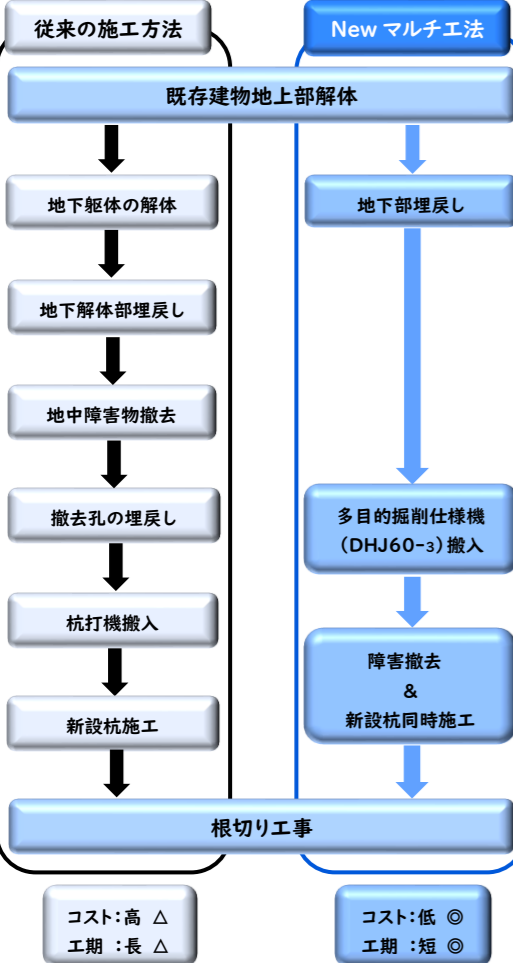


施工概要図

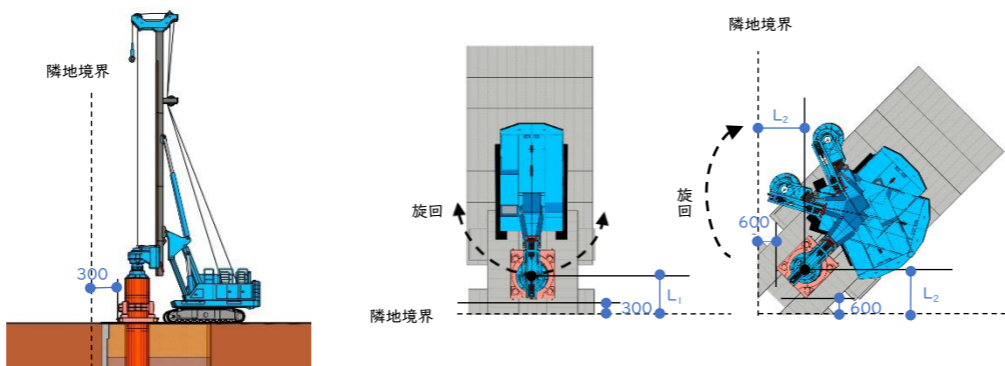


地中障害物の撤去から新設杭施工までの流れ

【従来の施工方法とNew マルチ工法との比較】



隣地境界からの最小離隔距離



パワージャッキのサイズ一覧表

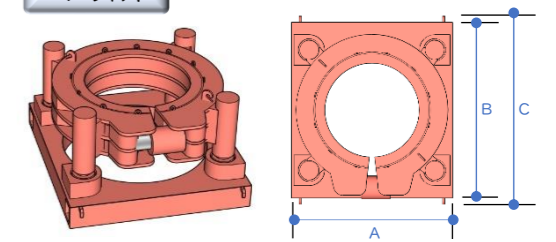
型式	1016型	1200型	1280型	1500型	1750型	1800型	2000型
A	2,100	2,100	2,100	2,200	2,300	2,300	2,500
B	1,920	2,110	2,110	2,384	2,660	2,684	2,884
C	2,160	2,350	2,350	2,618	2,900	2,918	3,118
	(mm)						

・適用ケーシング径と隣地境界から杭心までの最小離隔距離一覧表

適用ケーシング径	φ1000	φ1200	φ1300	φ1500	φ1600	φ1800	φ2000
L ₁	1,380	1,480	1,480	1,610	1,750	1,760	1,860
L ₂	2,030	2,090	2,090	2,230	2,360	2,370	2,510
	(mm)						

※最小離隔距離は使用パワージャッキや施工条件から現場ごとに適切に設定する必要があります。

パワージャッキ



お問合せ先

詳細は弊社までお問合せください。

ジャパンパイル株式会社



※本資料の内容は予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。